

21 C型肝炎に対するLEMの治療効果についての検討

○高島 澄夫（湯川胃腸病院食養内科，放射線科）
 佐々木浩一（同放射線科）
 湯川絃未（同薬剤部），湯川永洋（同内科）
 大橋康宏（野田食菌工業）

【目的】椎茸菌糸体培養抽出物「LEM」はその免疫調節作用，抗ウィルス作用により肝炎に対する治療効果が期待できる。B型慢性肝炎に対してはすでにその有用性が報告されているが，今回はC型肝炎に対する治療効果を検討する。

【対象・方法】C型慢性肝炎・肝硬変10例に対しLEMを投与した。今回の対象はLEM投与期間が6ヵ月以上経過した6例で，51歳～70歳（平均63歳），男性3例，女性3例である。LEMの投与は1日6gとした。LEM投与後毎月肝機能検査，core抗体価，HCV-RNA定量，AFP値を測定した。投与期間は6～12ヵ月（平均9.7ヵ月）である。

【成績】AST, ALT, γ -GTP, ZTT, γ -glo., ALB, CHE, PTTのLEM投与前後の値からみた改善例，不変例，悪化例の割合を検討した。ASTは改善例33%，不変例67%，悪化例0%，ALT: 50%, 50%, 0%， γ -GTP: 67%, 17%, 17%，ZTT: 33%, 50%, 17%， γ -glo.: 0%, 100%, 0%，ALB: 0%, 100%, 0%，CHE: 17%, 83%, 0%，PTT: 33%, 50%, 17%であった。core抗体価は低下50%，不変17%，増加33%，HCV-RNAは低下50%，不変33%，増加17%，AFP値は低下50%，不変33%，増加17%であった。投与中の副作用，症状悪化等は全く見られなかった。

【結論】C型慢性肝炎・肝硬変例に対してLEMを投与することにより肝細胞障害の程度を約半数例で改善することが可能であった。また不変例の中には強力ミノファゲンCの投与量を削減できた症例も含まれていた。C型肝炎ウィルスの抗体価，ウィルス量も半数で低下を認め，C型肝炎に対するLEMの治療効果は緩徐ではあるが有用性が高いものと考えられた。今後長期的な治療効果および症例数を増やしての検討をさらに続けたい。